

Shimane Architecture Competition



平成23年度 **しまね**
建築・住宅
コンクール

島根県

魅力あるしまねの暮らしを目指して



ごあいさつ

島根県知事 溝口善兵衛

近年、島根県におきましては、少子高齢化への対策や地域コミュニティの維持・再生、地震などの自然災害に強く、環境に優しい街づくりなどの課題があります。このため、県内の住宅や建物にも、バリアフリー化や空き家の活用、耐震、省エネ性能の向上などが求められています。

島根県では、平成19年度から「しまね建築・住宅コンクール」を実施して、県民や事業者の皆様から、優良な住宅や建物の整備・活動事例を募集し、特に優れたものをモデル事例として広く紹介しています。今年度は、これまでで最多の94件もの応募をいただきました。ご応募いただきました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

ご応募いただきましたものにつきましては、審査委員会において、現地審査を含めて慎重な審議を重ね、最優秀賞の「ワーク くわの木 江津事業所」をはじめ、建築物9件、活動4件の合計13件を表彰することとなりました。

受賞されました皆様には、心からお祝いを申し上げます。また、大変難しい審査を行っていただきました審査委員の皆様にお礼を申し上げます。

今回の表彰が、県民の皆様の豊かな住まいや建物づくりと魅力ある地域づくりへの取組の参考となれば幸いです。

県では、今後も安全・安心で豊かな住生活の実現に向けた取組を進めて参りますので、県民の皆様の一層のご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成24年3月

選考総評

審査委員長 熊谷 昌彦

平成23年度のテーマは「魅力あるしまねの暮らしを目指して一快適で豊か、安心で安全な生活の実現のために」とし、建築物部門と活動部門の2部門に分けてテーマに即した建築行為、住生活に関連する活動を募集しました。

今年度の応募総数は94件で、建築物部門90件、活動部門は4件の大変多くの応募がありました。

審査にあたり、住宅・建築物の幅広い内容の新築・改修事例があり、応募物件毎に優れた工夫が見受けられることから、各賞の選考については慎重に行い、第1次審査で応募書類、写真をもとに29件を選出し、第2次審査にて現場視察等を行い、表彰候補13件を選定しました。

今回は最優秀賞1件、優秀賞3件、奨励賞9件を選定しました。最優秀賞の「ワークくわの木江津事業所」は、障がい者の通所施設として、通所者がスタッフとして働くレストランを併設するなど、市民と直接ふれ合う場を創出しており、まちづくりの一環としてユニバーサルデザインをすすめる建築のモデルを示していました。

優秀賞は「渡橋の家」、「母里の家」、「カイダンダンノイエ」の3件の木造住宅を選出しました。3件とも建築主のニーズに応えながら、木造住宅の新たな可能性を提案している点を評価しました。

奨励賞は、建築物部門から「家族の健康を守る家K邸」、「パティオのある家」、「五箇小学校木造校舎耐震改修」、「石州瓦の家」、「築後139年を住み継ぐ、古民家再生」の5件、活動部門から「改修した廃校舎を舞台に広がる都市交流活動」、「地元の木材を活かした読書空間づくり活動」、「平成23年度法吉地区防災訓練」、「街の魅力を再発見するまちあるき企画の運営」の4件を選出しました。いずれも県内で今後のモデルとなり波及効果を期待できる建築物や活動が、受賞に至る結果となりました。

今回表彰された建築物や活動が、様々な場所で今後のモデルとなり、県内の良質な住環境整備の推進につながっていくことを審査員一同期待しています。

平成24年3月

平成23年度 しまね建築・住宅コンクール

テ ー マ

『魅力あるしまねの暮らしを目指して
—快適で豊か、安心で安全な生活の実現のために—』



表彰銘板
(石州敷瓦)

受賞物件

【建築物部門】

- ① ワークくわの木 江津事業所
江津市江津町
- ② 渡橋の家
出雲市渡橋町
- ③ 母里の家
安来市伯太町
- ④ カイダンダン ノ イエ
松江市東出雲町
- ⑤ 『家族の健康を守る家』K邸
松江市内中原町
- ⑥ パティオのある家
出雲市知井宮町
- ⑦ 五箇小学校木造校舎耐震改修
隠岐郡隠岐の島町
- ⑧ 石州瓦の家
大田市大田町
- ⑨ 「築後139年を住み継ぐ、古民家再生」
益田市中島町

【活動部門】

- ⑩ 入間交流センターを舞台に広がる
都市交流活動
雲南市掛合町
- ⑪ 地元の木材を生かした
読書空間づくり活動
隠岐郡海士町
- ⑫ 平成23年度 法吉地区防災訓練
松江市比津町
- ⑬ 街の魅力を再発見するまちあるき企画
の運営
松江市白濁本町

最優秀賞

ワークくわの木 江津事業所

まちとともに歩む障がい者通所施設



全国的に少子高齢化が進むなかで、福祉のまちづくりを意図して、建築ばかりでなく、都市計画もバリアフリーの計画が展開し、ユニバーサルデザインが標準となる時代を迎えています。それは、人の生活や身体を建築物や環境にあわせるのではなく、環境が人にあうように努力することが当然の社会を目指しているものです。

この建物は江津市のシビックセンターゾーンの中心に位置し、障がい者の日常社会活動の場となる通所施設です。建物は北側の「ワークくわの木」、南側の「森のレストラン」で構成されています。障がい者の日常活動の通所施設に、市民が気兼ねなく利用できるレストランを備えることで、障がい者の働く場を創出している点を評価しています。住民や利用者のことを考え、建築主、設計者、施工者の相互の協力があったからこそ実現できたものと考えます。

また、地元産材料にも配慮されており、屋根に地元の石州瓦、レストラン部の大型開口部は島根県産の檜、外部テラス床の石州瓦タイル等が使用されています。従来は素っ気なく、少し冷たくなりがちな障がい者施設を、暖かくやさしい建物

に仕上げています。

屋根の形状が水平でなく、道路勾配方向に勾配をつけたデザインで、壁面も妻壁は垂直でなく角度をつけた建築のデザインとなっています。それによって、「ワークくわの木」と「森のレストラン」間が少し囲まれた感覚があり、両者が一体的な施設として感じられる効果が伺えます。また、レストラン側の出入り口が壁の厚み分をみせているため奥行きを感じさせ、フロントに利用者を誘導しているように思えます。そして、もともとあった桜の木を残したことで、冬では樹木の緑と屋根の赤瓦が調和していますし、春になると桜のピンクが私たちを迎えるように計画をされています。

以上のことから、まちづくりの一環として、地元産材を用いて障がい者施設のノーマライゼーションの建築のモデルを提示しており、最優秀賞としました。（熊谷昌彦）



所在地：江津市江津町
建築主：社会福祉法人いいわみ福祉会
設計者：中塩和彦建築設計事務所
施工者：株式会社原工務所

〈建物概要〉

用途：福祉施設／構造：木造／階数：1
延床面積：660.60㎡／工事種別：新築



優秀賞

渡橋の家

ローコストで高性能



コンパクトな住まいで、直方体の組み合わせのこの住宅は一見どこかのハウスメーカーあるいはデザインチェーンメーカーの住宅かなと思わせる程、ディテールまでよく練られた作品である。

昔からの市街地にある南北に長い不整形の敷地に建っている。様々なサイズの直方体を巧みに組み合わせて配置し、その結果生じる複数の外部空間には異なる役割を与えていて無駄がない。

内部には若者世帯の生活の工夫が随所にみてとれ、簡素でも住み心地の良さがうかがわれる。

ローコストで高い性能を目指していて、最新の住宅づくりの制度がフル活用されている。建築環境総合評価はAランク、住宅履歴の第三者機関への登録も行った長期優良住宅で、構造材を中心に県産材を多用している。

また、将来の家族構成の変化にも対応できる間取りで、計画・設計時点から住まい手の住まい方に対する強い熱意が感じられる作品である。

それゆえにか、施工精度も高く、文字通り長く住み続けられる住宅である。

(矢野敬明)



所在地：出雲市渡橋町

建築主：個人

設計者：藤原木材産業設計事務所

施工者：株式会社藤原木材産業

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：2
延床面積：109.25㎡／工事種別：新築

優秀賞

母里の家

伝統の継続と現代的ニーズへの対応



所在地：安来市伯太町

建築主：個人

設計者：株式会社TEAM STUDIO ARCHITECTS

施工者：kinomama house

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：2

延床面積：258.36㎡／工事種別：増改築

工事内容：既存住宅の一部分を改装・増築

江戸時代に伯太川沿いの城下町として発展した街並みに、文化財に指定された旧家が3軒並びに存在する2世帯住宅です。伝統的な街並みに、伝統的な素材を使用し、現代のニーズにあった住宅を計画しています。ここでは、伝統の継続、街並みの保全、風景の理解、材料の肌合いや色そして外部と内部の間の空間構成、日常生活の質、世代の価値意識を考慮することが求められます。街並み形成では、漆喰・石州瓦の深い軒先・格子戸の工夫をこらし道路と敷地の連続性を保っています。風景では裏山に注目し、山の景色を庭に取り入れて、建物内部につなげることで、内部と外部を一体化した計画としています。この計画が、漆喰、珪藻土、じゅらく、すぎ、くわの木（仕上げ材）の材料使用となり、すがすがしい雰囲気をも建物全体に醸し出しています。

機能的には、街道、前庭、続き間、キッチン、リビング、和室（奥の間）が連続した展開を示しています。それに呼応して、空間的に、街道から建物（玄関）、中庭、デッキ、庭園をぬけ山の景色と連続した構成を示しています。現代的ニーズにあうように、中心にキッチンとリビングが位置し、中心から外へデッキと庭が続いています。なお、メインLED照明、遮蔽シート等によりエネルギーの使用を抑えています。

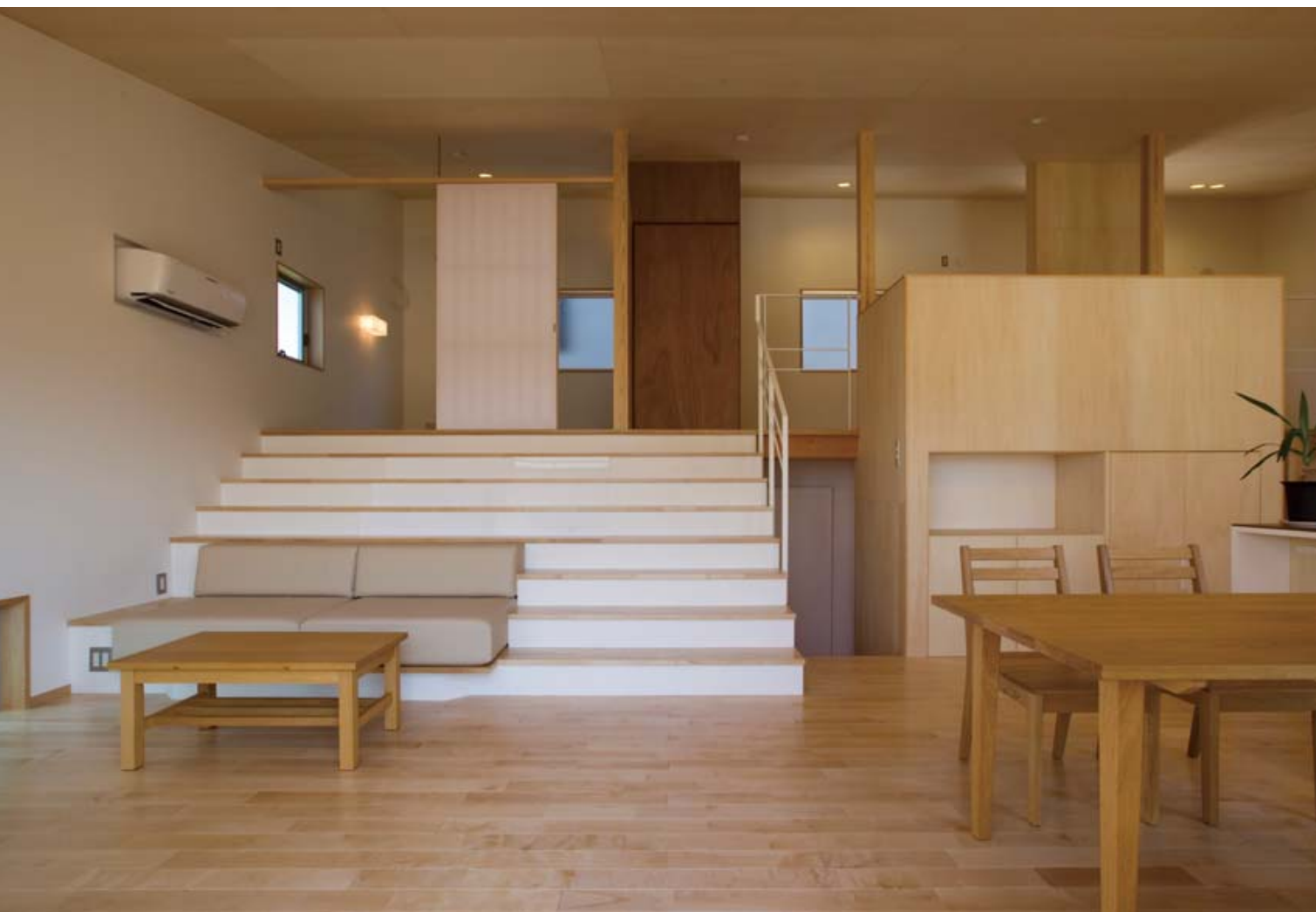
以上のことから、城下町の歴史的な文脈を考慮したうえで2世帯住宅の空間構成を、伝統の継続、内外空間の連続性、現代的ニーズへの対応、季節を考えた新しい技術の使用を用いて提示し、地域の特性を生かして創意工夫がみられる点を評価し、優秀賞としました。

（熊谷昌彦）

優秀賞

カイダンドン ノ イエ

段差による共有と分離



建設地は松江のニュータウンの一画にあります。ニュータウンは、新しい世代の息吹がめばえ、将来のライフスタイルを彷彿とさせる住宅の計画をうみだしています。この住宅は、プライバシーの確保と地域の関わり、家族同士のコミュニケーションを考えて計画をしています。面積規模は小さいが、夫婦二人の生活を大切にしており、段差はあってもほぼワンフロアの空間構成となっています。

まず、玄関を入れて、水廻り、キッチン、食堂・居間、子供部屋の各空間を段差で仕切ることによって住人も客人も各々が居場所を確保できるしつらえになっています。ある時はすべての空間が居間・食堂になり、ある時はすべての空間が子供部屋になってしまうという状況を許容していると思います。

また、居間とガレージの高低差をデッキテラスでつなぎ、中と外とが自然に一体的な空間となっています。空間共有しながら行動は別々といった空間づくりをしています。外部に対しては内側の開放感が外部の鉄や木の格子からすけて見え隠れし、プライバシーを守りながら、開放的なつくりをしています。

私達の日本の暮らしは、従来、壁によってプライバシーとパブリックを分けてきませんでした。祖先から受け継いできた遺伝子は近代でなく現代に受け継がれ住宅のなかで再び目覚めようとしているように思えます。住人が、壁ではない障子や階段や格子やデッキ等、空間を仕切るシンボルを読み取って住みこんでいく知恵を感じます。

(熊谷昌彦)



所在地：松江市東出雲町

建築主：個人

設計者：原浩二建築設計事務所

施工者：株式会社御船組

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：2
延床面積：132.82㎡／工事種別：新築

奨励賞

『家族の健康を守る家』 健康への徹底的な配慮

K邸



所在地：松江市内中原町
建築主：個人
設計者：都間建築設計事務所
施工者：株式会社都間土建

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：2
延床面積：147.48㎡／工事種別：新築

住まいづくりには色々なテーマがあります。この住宅の新築事例の場合、家族の健康を守ることが絶対的なテーマでした。建築主の子供さんが極度のアレルギー症で喘息の発作もあり、また、奥様も化学物質に敏感で、化学物質の発散がほとんどないとされている材料を用いた住宅でも不安があったそうです。

このため、化学物質が発散されない住宅づくりをしてくれる業者を探して、実に20社以上の工務店を面接されています。

どのような作り方をすればよいのかは、とても簡単です。化学物質を全く使わずに、自然素材だけを使って住宅をつくる、ほんの半世紀前までは当たり前であったことをすればよい。おそらく、面接された全ての工務店の担当者が直ぐにわかったはずですが。しかし、それを実現するためには、大きな困難が伴うのが現在の日本の住宅づくりなのです。化学的に合成された接着剤、塗料、壁塗り材を使わない。建築の仕上げ材料以外にも水道や電気の設備工事も同様に気をつけなければなりません。

この建築主と設計者・施工者は、そのような難題に取り組み、入居後は家族の体調が改善されるという見事に満足できる結果を出されました。その努力に心から敬意を表します。

(川井香織)

奨励賞

パティオのある家

中庭がもたらす開放と閉鎖



出雲市の新興住宅団地内に建つ住宅である。この設計者は、最近多くのパティオをもつ住宅を手がけている。パティオとは、スペイン風住居に見られる屋根のない中庭のことで、換気、採光、プライバシーやセキュリティの確保に有効である。

この住宅では、出雲地域特有の冬季の強い北西風を考慮して、北側に無開口の外壁面を設けている。そのため、周囲に対して閉ざされた印象を与えているが、南面とパティオ（中庭）に面して大きな開口部を設けたことで、開放感あふれる内部空間となっている。

また、敷地周囲に塀や垣を設けていないため、住宅敷地内の外部空間が公共空間と一体化して、団地内の空間にも広がり生まれている。

南面から中庭にかけての開放感、そして北西面で建物と一体となった壁で囲まれたパティオが組み合わさって本住宅を特色づけている。本来のパティオ（中世ヨーロッパの）とは異なる、この地域に合った中庭の工夫は、この地域の新しいモデルとなり得る。

中で住んでいるご家族の満足感が伝わってくる作品である。 (矢野敏明)



所在地：出雲市知井宮町

建築主：個人

設計者：宇佐美建築設計室

施工者：有限会社石川工務店

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：2
延床面積：139.90㎡／工事種別：新築

奨励賞

五箇小学校木造校舎耐震改修

県内初の木造校舎の耐震改修



所在地：隠岐郡隠岐の島町
建築主：隠岐の島町長 松田和久
設計者：株式会社寺本建築都市研究所
施工者：株式会社金田建設

〈建物概要〉

用途：小学校校舎／構造：木造／階数：2
延床面積：1,999.44㎡／工事種別：改修
工事内容／大規模修繕・耐震補強

村で多くの卒業生を輩出した木造の小学校校舎を、耐震改修により残そうという県内で初めての事例である。

昭和33年に建設された木造校舎で、平屋建てと2階建ての棟が中庭を挟んで平行に建っている。既存校舎を改修するのか、新築するのかについて議論を重ねた末、地域の人々の記憶、木造校舎に感じる懐かしさを大切につないでいくために、改修することが選択された。

改修にあたっては、「懐かしい」、「木造校舎」の保存と活用をテーマとして、「外壁と内壁の筋かい、基礎及び腐食部の補強を行って耐震性を確保しながら、外壁についてはモルタル塗りを杉板張りに変更して木造校舎であることを鮮明にしている。古い建具等を可能な限り再利用することによって、懐かしさ、親しみやすさを感じられるよう工夫している。

特色ある屋根の骨組みを天井で隠すことなくあえてあらわしとして、木造であることを強調しながら、建設当時の工の技術を生徒に見せている。

ただ、改修といいながら、どうしても現在の利便性、色あい等をクライアントは求めているのだと感じられ、設計者の昔の校舎に対する想いと発注者の想いの間での葛藤がうかがわれる。

いずれにしても、この建物がこれから行われるであろう県内の木造の耐震改修の手本となる作品であることは間違いない。

(矢野敏明)

奨励賞

現代の生活に適合させた町家

石州瓦の家



明治期に建てられた町家の再生事例です。家族の歴史、思い出の詰まった建物をできるだけ残しながら、現代的な機能性を持ち合わせた住まいとすることが建築主の要望でした。

もともとは二軒の町家であったものの内、一軒の傷みの少なかった和室、玄関などの平屋部分を残し、キッチン等の水廻り部分は撤去、新築しています。

また、これまで無かった駐車スペースを確保するため、再利用する部分についても一旦、解体、場外搬出して、敷地奥側に後退させて改めて組み立てています。建物が後退した分、新築部分を2階建てにして延べ面積を確保していますが、2階の軒高を抑えて、ホールの吹き抜けと連続した空間を創り出しています。

また、この吹き抜け上部に天窓を設けることにより、中の間へ自然光を採り入れています。

思い出がある建物を残したいという建築主の希望を実現するため、平屋部分は建具も含めて、補修を加えて当時の部材を再利用し、2階建ての新築部分も古色塗りを施すこと等により、改修前の印象を保ち続けています。

良いものは、手間をかけても残して使い続けていく。古くて良い住宅が多く残る島根県において、参考としてもらいたい改修事例です。

(川井香織)



所在地：大田市大田町

建築主：個人

設計者：一級建築士事務所 江角アトリ工

施工者：株式会社内藤組

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：2
延床面積：173.31㎡／工事種別：新築
工事内容：既存住宅一旦解体し、再構築

奨励賞

「築後139年を住み継ぐ、古民家再生」 段階的に改修し、永く住まう



所在地：益田市中島町
建築主：個人
設計者：有限会社万設計
施工者：有限会社大広建設

〈建物概要〉

用途：専用住宅／構造：木造／階数：1
延床面積：235㎡（改修部分117㎡）
工事種別：改修
工事内容：バリアフリー化・設備更新

明治5年に母屋が建てられ、現在まで代々住み継がれてきた古民家の改修事例である。これまでに、屋根は一度葺き替えられているが、大きな改修は行われていない。今回も、外部は傷みが激しい部分や一部の外壁の塗り直しなど意匠的な再生にとどめられていて、風格を感じさせる外観に変わりはない。

そして、内部については、高齢である建築主の母親が混乱しないよう、生活動線や生活様式には大きな変更を加えずに日常生活空間のバリアフリー化が行われている。また、健全な天井材や建具を再利用することで、廃材を極力減らしているのと同時に、建築主の改修前の住宅への想いや親しみをつないでいくよう配慮されている。

これにより、改修した部分と既存の部分との調和が図られており、違和感を感じさせない改修となっている。

古くからある住宅を、段階的に改修して再生させ、永く使い続けようとする改修工事のモデル事例として高く評価できる。
(谷口智美)

奨励賞

入間交流センターを舞台に広がる都市交流活動

廃校舎を改修し、地域コミュニティの中心へ



入間交流センターは、小学校の統廃合により平成20年3月に廃校となった入間小学校を改修したもので、現在、児童の待機場所、集会施設、他地域から研修などで訪れる人の宿泊施設、災害時の避難場所や地域のお祭など様々な目的で、この地域の拠点施設として利用されています。

もともと廃校舎の利活用計画の検討が、地元住民と雲南市に加えて、平成19年から早稲田大学の建築系研究室が参加して行われており、毎年、夏と秋に交流活動が続けられていましたが、その交流が下地となって、廃校舎の再生整備の基本設計を早稲田大学に依頼することになりました。

基本設計の過程を通じて、学生達が実際に現地で地元住民と意見を交わし、交流が一層深まりました。

実施設計に際しては、島根県建築士事務所協会雲南支部の全面的な協力を得て、完成までの期間に様々なワークショップや交流活動が開催され、地元住民のほか広島や鳥取の建築系の学生達が、この建物を訪れる機会となりました。竣工後も、透けるパーテーションの作成や和紙の照明作りなどのワークショップが継続して実施されています。

人との繋がり大切さを感じる今、この入間の地域の人々が自然とここに集い、交流を持ち、本当にこの交流センターを愛し大切に想っているのが伝わってきました。

今後も、他の地域のモデルとなるよう、活発な活動が続くことを期待します。

(川井香織)



主な活動場所：雲南市掛合町

活動実施主体：入間コミュニティ協議会

奨励賞

地元の木材を生かした読書空間づくり活動 住民自らが整備に携わった手作り図書館



主な活動場所：隠岐郡海士町
活動実施主体：海士町教育委員会

町の地域活動拠点の老朽化に伴う改修工事にあわせて、増築されたこの図書館は、町が提唱している「島まるごと図書館構想」の中心的な施設として位置づけられており、内装や外観に隠岐産の杉、黒松を使い、木の香る空間を形成している。

この木の香る図書館の読書空間づくり活動として、施設利用者である地域住民がワークショップを開催して、本棚、机などを隠岐産の間伐材を使って自らの手で製作している。

この活動によって、参加者は施設への愛着が沸き、いつも大切に図書館を利活用することができるだろう。また、工事費用を抑えることにも随分と貢献している。

いつの頃からか私たちは、公共施設は行政が税金をつかって整備するものと決めつけてしまっていたようだ。

住民自らが、少しだけ手間と時間をかけて、公共施設の整備に携わる活動をすることで、施設をみんなで共有して、活性化・交流の場の実現に繋がっていく。

これからの公共施設の整備の場面において、標準的な手法として普及していく可能性を有している。
(佐々木 巧)

奨励賞

平成23年度 法吉地区防災訓練

防災訓練を通じて生まれる居住支援の輪



この地区は、以前から水害を受けやすい事から、防災意識が高く、自治会において地区防災対策本部を組織し、避難・連絡・炊き出し訓練を毎年継続して実施している。

松江市や消防署にも協力を要請し、参加してもらうことで災害時の連絡体制の強化を図り、平成23年度は陸上自衛隊出雲駐屯地の協力を得て、東日本大震災災害派遣活動体験談や、野外炊事車による炊き出し、給水車による受水体験、災害時派遣車両や装備品の展示をして、地区住民への啓発を行った。

昨今、居住人口の減少や、高齢化により地域コミュニティの弱体化が進む中で、災害時における要援護者の安否確認や、避難誘導等の訓練を行い、地域住民が安心して生活できるよう取り組んでいることはすばらしい。

災害時のみならず、平時においてもこれらの活動を地域コミュニティに活かし、さらに発展する活動となることを期待したい。
(佐々木 巧)



主な活動場所：松江市比津町
活動実施主体：法吉地区災害対策本部

奨励賞

街の魅力を再発見するまちあるき企画の運営 暮らしを見つめ直すまち歩き



主な活動場所：松江市内

活動実施主体：NPO法人まつえ・まちづくり塾

まちの魅力とは何なのか、もちろん一言では表現できない。歴史や街並み、個々の建物、祭りや風習、食べ物等々、様々な要素が絡み合って形作られ、それゆえに、まち毎に、評価する個人毎に、異なる。

このNPO法人は松江のまちを中心に、その魅力をできるだけ多くの人々、とりわけそこで暮らす人々に知ってもらうための取り組みを続けている。

平成21年度から続けられているこの活動は、松江の市街地に魅力的な建物が数多く存在するという認識に基づいて、そのことを地元の建築家の視点で確認、再評価したうえで、その建築家のガイドにより、街並みや建築物等を見てまわるまち歩きツアーの企画・運営である。旧城下町、商店街、公共建築物の集積地等を中心に、実施されてきた。

まち歩きの実践により収集した「まちの魅力」の情報は、「まち歩きマップ」として整理、配布されており、多くの市民へ周知できるよう努めている。参加者以外への波及効果を生んでいる点は、まちづくりの活動として望ましい姿と言える。

住みなれた自分のまちについて知ること、再評価することは、まちに住む喜びに繋がりが、市民自らが魅力ある暮らしを生み出すことに繋がる。今後もこの活動が継続され、発展していくことで、創造するまちづくりに繋がることを期待している。

(谷口智美)

テーマ・応募物件

『魅力あるしまねの暮らしを目指して』

— 快適で豊か、安心で安全な生活の実現のために —

- 募集テーマに即した建築行為、住生活に関連する活動であること
- 島根県内において、平成23年11月18日までに実施されたものであること
- 自薦・他薦を問わず、個人・団体・企業・自治体、どなたでも応募可能

なお、部門は以下のとおりです。

【建築物部門】

概ね5年以内に建築（新築、増築、改築または移転）し、修繕し、または模様替えした建築物（建築物の一部またはその敷地を含む）であって、募集テーマに即して、以下のいずれかに該当するもの

- 建築主、利用者などへの配慮がなされているもの
- 創意、工夫が見られるもの
- 地域特性を活かしたもの
- 既存建築物を活用したもの
- 今後のモデルとして、波及効果が期待できるもの
- その他の先進的事例

例えば

- 地域のコミュニティ形成や活性化を目的とした廃校舎等の改修
 - 耐震、バリアフリー改修工事を実施し、耐用年数を延ばした事例
 - 工法、工事期間等を検討し、工事費用を抑えた事例
 - 設備のメンテナンス等を軽減した事例
 - 地域に増加する空き家を再生した事例
 - 県産木材や石州瓦などを効果的に使用した事例
 - 長期優良住宅や防犯性能の向上に積極的に取り組んだ事例
 - ランニングコストを抑える工夫をした事例
 - 建築主への健康に配慮し、材料や建材を取り替えた事例
- など

【活動部門】

募集テーマに即した住生活に関連する取り組み、活動であって、以下のいずれかに該当するもの

- 創意、工夫が見られるもの
- 地域特性を活かしたもの
- 他者への意識啓発に寄与しているもの
- 積極的、継続的に取り組まれているもの
- 今後のモデルとして、波及効果が期待できるもの
- その他の先進的事例

例えば

- 継続して行われている定住に向けた空き家の調査や活用の支援活動
 - 高齢者世帯への地域での居住支援活動
 - 使われなくなった学校、店舗等を活用して行われているまちの活性化活動
- など

審査経過

募集結果

募集期間 平成23年9月20日～11月30日
 応募総数 94件
 【建築物部門】 90件（新築66件、リフォーム24件）
 【活動部門】 4件

審査経過

第1次審査 応募書類、写真をもとに第2次審査の対象となる29件を選出
 審査期間 平成23年12月7日～12月12日
 選出件数 29件
 【建築物部門】 25件（新築15件、リフォーム10件）
 【活動部門】 4件

第2次審査 選出された29件について第2次審査を実施し、表彰候補13件を選定
 現地審査 平成24年1月10日～1月26日
 最終審査会 平成24年1月31日
 選出件数 13件
 【建築物部門】 9件（新築6件、リフォーム3件）
 【活動部門】 4件

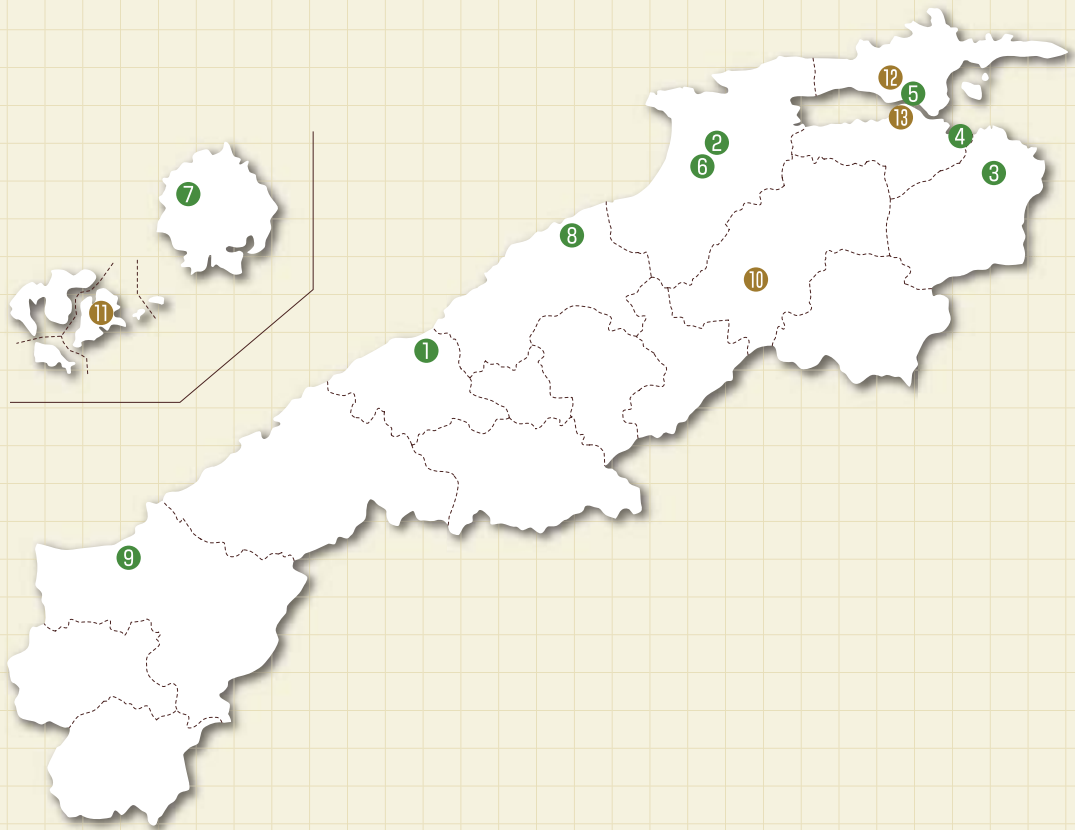
表彰式

開催日 平成24年3月15日
 授与式 受賞物件の建築主又は活動実施主体、設計者及び施工者に対して賞状を、建築主及び活動実施主体には、副賞として表彰銘板（石州敷瓦）を贈呈。

審査委員

審査委員長 熊谷 昌彦 ●独立行政法人国立高等専門学校機構
 国立米子工業高等専門学校建築学科教授
 審査委員 川井 香織 ●社団法人島根県建築士会 女性委員会委員長
 佐々木 巧 ●浜田市建設部建築住宅課長
 谷口 智美 ●独立行政法人雇用・能力開発機構
 ポリテクカレッジ島根 住居環境科
 矢野 敏明 ●社団法人島根県建築士事務所協会会長

受賞物件所在地



【建築物部門】

- ① ワークくわの木 江津事業所
江津市江津町
- ② 渡橋の家
出雲市渡橋町
- ③ 母里の家
安来市伯太町
- ④ カイダンダン ノ イエ
松江市東出雲町
- ⑤ 『家族の健康を守る家』K邸
松江市内中原町
- ⑥ パティオのある家
出雲市知井宮町
- ⑦ 五箇小学校木造校舎耐震改修
隠岐郡隠岐の島町
- ⑧ 石州瓦の家
大田市大田町
- ⑨ 「築後139年を住み継ぐ、古民家再生」
益田市中島町

【活動部門】

- ⑩ 人間交流センターを舞台に広がる
都市交流活動
雲南市掛合町
- ⑪ 地元の木材を生かした
読書空間づくり活動
隠岐郡海士町
- ⑫ 平成23年度 法吉地区防災訓練
松江市比津町
- ⑬ 街の魅力を再発見するまちあるき企画
の運営
松江市白湯本町

第2次審査対象物件一覧

部門	名称	所在地
建築物部門	奨励賞 パティオのある家	出雲市知井宮町
	矢尾の家	出雲市矢尾町
	出雲地方の景観に美しく映える地産地消をテーマに省エネルギーと自然エネルギー、快適性能のある家	出雲市高岡町
	奨励賞 『家族の健康を守る家』 K邸	松江市内中原町
	奨励賞 五箇小学校木造校舎耐震改修	隠岐郡隠岐の島町
	城下町松江の街並みにあうしっとりとした趣を持つ住まい	松江市北堀町
	最優秀賞 ワーク くわの木 江津事業所	江津市江津町
	奨励賞 石州瓦の家	大田市大田町
	ギャラリー 夢倉	出雲市湖陵町
	優秀賞 渡橋の家	出雲市渡橋町
	F邸	出雲市渡橋町
	「想いを継ぐ家」(O邸)	浜田市三隅町
	奨励賞 築後139年を住み継ぐ、古民家再生	益田市中島町
	安来道の駅飲食棟建築工事 (安来アラエッサ道の駅 中海の郷)	安来市中海町
	平成20年度長寿命住宅普及タイプ 「海の家」・「山の家」・「里の家」建築工事	隠岐郡海士町
	優秀賞 母里の家	安来市伯太町
	Celeste	松江市八束町
	古民家再生(リフォーム工事)	出雲市大社町
	舟島屋	出雲市姫原町
	旧江津町役場	江津市江津町
旧江津郵便局	江津市江津町	
優秀賞 カイダンダン ノ イエ	松江市東出雲町	
菓子工房 みまつ	出雲市塩冶町	
美容室 Leaf	雲南市大東町	
活動部門	奨励賞 改修した廃校舎を舞台に広がる都市交流活動	雲南市掛合町
	奨励賞 地元の木材を生かした読書空間づくり活動	隠岐郡海士町
	奨励賞 平成23年度 法吉地区防災訓練	松江市法吉町
	奨励賞 街の魅力を再発見するまちあるき企画の運営	松江市白湊本町

(受付順)

平成23年度

しまね建築・住宅コンクール

●
[主催] 島根県

[後援]

島根県建築行政推進協会・(社)島根県建築士会・(社)島根県建設業協会・(社)島根県建築組合連合会
(社)島根県宅地建物取引業協会・(社)島根県建築士事務所協会・(財)島根県建築住宅センター・(社)島根県建築技術協会
(社)島根県住まいづくり協会・(社)島根県管工事協会・(社)島根県電気工事業協会

●
平成24年3月発行

●
島根県土木部建築住宅課